

TRICOLOR

文部科学大臣表彰

このたび本クラブは、平成 20 年度生涯スポーツ優良団体として、文部科学大臣から表彰されることになりました。

永年に渡り地域のスポーツ振興に貢献したことが認められたものです。本当に、実にかくさんの方に支えられてここまでやって来られました。皆様には感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

今後も、より一層皆様に愛されるクラブとなるために、ますます頑張ってお参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

大会・公式戦結果

Top

【県社会人リーグ(KSL-1)】

▼第9節

vs 六浦 FC 1-0●

▼第10節

vs 港北 FC 1-1△

Junior Youth

【高円宮杯県大会】

vs 横浜市立大道中 0-1●

vs 横須賀シーガルズ 0-6●

小6

【国際チビッツ】

vs 鴨志田第一 FC 5-10

小5

【NHK 杯ジュニアサッカー大会 2008】

vs 横浜港北 SC 0-1●

vs 磯子フレンズ 2-0●

※グループリーグ第2位で敗退

小4

【国際チビッツ】

<ブルー(A)>

vs 大豆戸 FC-B 0-5●

vs 小雀 1-5●

Papas

<マスターズリーグ>

【県マスターズリーグ】

vsdfb 0-1●

<Rec>

【県シニアリーグ四十雀4部】

vsdfb パフォーマーズ 0-3●

vsFC430 1-2●

<Comp>

【県シニアリーグ四十雀2部】

vs 多摩 1-1△

vs 鎌倉 0-1●

今、グラウンドでは...

Top

【県リーグ再開!】

Top チームはゲームがなかった 8 月が明け、9 月 14 日(日)に県リーグ第 9 節×六浦 FC 戦を行い、1-0 で勝利、続く 9 月 28 日(日)に第 10 節×港北 FC 戦を行い、1-1 のドロー。9 月は総勝ち点 4 を手に入れました。残留を確実にするためにも 10 月 12 日(日)の東海 FC Wings との最終戦は必ず勝利して残留を確実にしたいです!

【色】

サッカーはゴールを奪うスポーツです。相手側のゴールにボールを入れるという単純なものですが、実はその過程を楽しむものだと私は思います。なにせ 11 人もの相手が立ちただかってくるものですから簡単にゴールは奪えません、そこでゴールを奪うために沢山の方法が必要になってきます。それには人それぞれ考え方がある...県リーグ 1 部に所属するチームには色々なチームがあります。第 9 節を戦った六浦 FC というチームは個人の能力が高く、しっかりボールを保持しスピードがあるサイドの選手を中心にグラウンドの幅をうまく使ってくるチーム、第 10 節を戦った港北 FC というチームはロングボールを他用し、フィジカル面で押し込んでくるチーム、など各チームには「色」があります。ではかながわクラブの「色」は?.....答えは.....これといったものが見当たりません。

勝っている試合を見るとチーム全体の堅実な守備がスタイルとも見えてとれますが、今のかながわクラブは相手に対してリアクションのサッカーになりがちです。相手に押し込まれ苦し紛れにロングボールを多用して走る、セットプレーで点をとる、そんな試合が多くなっています。なにせ今シーズンは 1 試合 1 点以上獲っていません。そして攻撃において相手との駆け引きが非常に少ないです。確かに試合の状

況によってはロングボールを多用することもあります。もう一度「ボールを大事にする」「判断、技術を重視する」かながわクラブすべてのカテゴリー共通のスタイルを見直し、観ている人が楽しいと感じるサッカーを10月12日の最終戦には見せられるように心機一転努力していきたいと思えます。(樋口 圭太)

【選手紹介③】



かながわクラブトップチーム選手紹介3回目は不動のボランチ、背番号8番角木選手です。

幼稚園時からかながわクラブで育ち、小6時には「横浜トレセン」に選出される等、高校時代以外(東高校所属)は、かながわクラブの各年代において中心選手として活躍し続けています。特に、ジュニアユース時代には「高田宮杯県大会」で優勝の栄冠に輝いています。これはJクラブが多数ひしめく激戦の神奈川県では偉業です。その当時、二木コーチに「神童」と言わせたテクニックは今でも健在、先日の六浦戦の勝利にも大きく貢献しました。現在の角木選手の魅力は、昔のような派手なプレーはないものの、相手の攻撃を読んでパスカット、ディフェンスラインの前でボールを奪い取り次の攻撃につなげる幅広い視野、攻撃に絡めば相手のディフェンスの裏を突く鋭いパス、などなどジュニアの選手にも手本になるものだと思います。今後の角木選手の活躍にご期待ください。

(中本 洋一)

角木選手のコメント

「幼稚園時代からかながわクラブにお世話になり、人一倍かながわクラブに愛着があります。まだまだトップチームの勝利のために貢献したいと思っていますので、ぜひグラウンドに足を運んで試合を見に来てください、これからも応援お願いいたします。」

Youth

夏休みの後半の悪天候により、予定され

ていた公式戦が2試合とも延期になりました。暑さと連戦の疲労から選手たちのコンディションが落ちていたために、まさに恵の雨でした。

また、戦術的にも修正したい点がありましたので、じっくりとトレーニングすることができました。すなわち、もう一度ボールの奪い方の確認と、常に周囲を見て考えてプレーする習慣づけについてやり直しました。

その後2回練習試合を行いました。その甲斐あって良い内容で終えることができました。

10月は学校行事により満足にトレーニングできない可能性があります。少ない人数でも内容の濃い練習を行い、11月から再開予定の公式戦では結果も求めていきたいと思っています。

その後は12月末にかけて試合が立て込みます。選手たちにおいては、良いコンディションを維持できるように細心の努力を怠らないように注意してください。

(内田 佳彦)

Junior Youth

夏の目標だった「高田宮杯」は残念な結果に終わりました。初戦の入り方が悪く、それが最後まで響いたといった印象です。

3年生が出場できる公式戦は、ノックアウト方式の「市長旗杯」と、残り2試合の「U-15リーグ」とわずかです。いよいよ本格的に受験モードに切り替えて行く時期になってきたと思いますが、もうしばらくは頑張っって両立し、最後までやり遂げて欲しいと思います。そして、すっきりとした気分で受験に向かわせてください。

また、1、2年生は上記公式戦と平行して、今年度から実施されることになった「2008/2009 県U-15リーグ」という長期リーグが始まります。

今後も「自分のため」、そして「チームのため」に頑張っていきたいと思います。

(二木 昭)

小 6

【国際ピッチサッカー大会】

国チビが開幕し、初戦を結果でも内容でも圧勝することが出来ました。

前日の練習試合、当日の公式戦で以下の課題を出してみました。

①プレー(味方も相手も)を何通りも予測し、その準備が出来る最適なポジションを自分で考えて早く足を運びましょう。

②浮いているボールは次のプレーが正確に出来るよう、必ずファーストバウンドでコントロールするよう集中しましょう。

③相手にプレーさせない(蹴らせない)為、早いプレッシャーをチーム全体でかけましょう。(DFから押し上げて出所と受所に早く足を運びましょう)

④ボール奪取をしたらグラウンドを広く使いより効果的なもらい方が出来るよう早く準備をしましょう(ポジションを取りましょう)ということを要求しました。

見事、試合中にお互い会話をしながら、実践してくれました。

特に感心したのは練習試合で失点をしたとき、その失点を嘆く姿もなく、すぐに岩崎くんがDFラインを集め、恐らくポジショニングやカバーリングについて、すぐに話合いによる修正をしていました。(なんて話していたのは知りませんが身振り手振りを交えて話し合っていました。)こう言ったことが出来るようになったのか?と感心して見ておりました。

試合は相手があることなので、相手のスピード、プレッシャーにより実現する精度は変わっていきますが、先ずこの2試合の内容を見る限り、チームとして大きく成長していると思います。今後の課題は相手のスピードやプレッシャーが上がる中、如何に早い準備をして、落ち着いて、普段の力を出せるかです。

すぐにできるとは思いませんが、負けないう気持ちを前面に出しながら、冷静にプレーできるよう、今後も指導していきたいと思っております。

今後も「かながわクラブ伝統」の強く美しいサッカーを目指して参りますので、初戦のような子供たちの力となる保護者の方々の声援をお願いいたします。初戦の応援はすばらしかったです。ブロック1位ではないでしょうか?(笑)

今後もよろしく願いいたします。

(益子 伸孝)

小 5

先日、5年生を対象にした横浜トレーニングセンター(通称トレセン:以下TC)のセレクションが、みなとみらいのマリノスタウンで行われました。

TCとは「選手の発掘・育成」を目的とし、日本代表さらには世界につながる選手を育成するために行われています。横浜TCから神奈川TC、関東TC、ナショナルTCとステップアップしていきます。横浜サッカー協会少年委員会育成部が横浜TCの担当をしているのですが、そこより通達があった選考基準は、①サッカーに対する取り組む姿勢②テクニックに優れている③特徴ある選手(精神面・身体面・技術面)でした。

これらをまずチーム内で選考しなければならぬのですが、かながわクラブからは、山口(尚)・岡田・岩下の3名を推薦し、セレクションに参加してもらいました。そんなこともあり、わずかな時間でしたが、久しぶりにセレクション会場に足を運んでみました。

私が観たのはほんの一部ですが、感じたこと、思っていることを数回に分けてご紹介させていただきます。

パッと観たかぎり、かながわの5年生と比較してみても、技術的な部分で、ものすごく差があるとは感じられませんでした。

では、TCに入れる選手と入れない選手との分岐点は何なのでしょう?私が見つめるのは、「メンタル面」だと思います。

セレクションの雰囲気にもまれたり、知らない選手とチームを組んでゲームするとき、遠慮して普段の力を出しきれない。そんなことであれば、選考者の目にとまることはありません。どんなに上手くても、精神的に脆いようであれば、レベルの高いステージにはたてないのです。もちろん、技術がゲーム中の場面と一致していなければいけない、ということもありますが、技術が発揮できていなければ、そんなことは言われません。

北京オリンピックで重量挙げの日本人選手が、「緊張しすぎて力が入らなかった」と言うコメントがありました。メンタルが試合に及ぼす力は多大なものです。毎日毎日、何回も繰り返し練習することにより、それが

自信となり、メンタルを強くする第一歩だと思います。普段はおとなしくても、ユニフォームに着替えたら、ピッチに立ったら、性格が変わるくらいであってほしいものです。<つづく>

(高田 成典)

小 4

【攻めの心理】

秋の公式戦が始まります。子どもたちには、失敗を恐れず積極的にプレーしてもらいたいと思っておりますが、最近の練習を見ていると、相手とコンタクトが必要な場面で身体をぶつけることができなったり、あと一歩早くボールに寄せることができずに相手にシュートを打たれてしまったりと、何か元気のないプレーが目についています。積極的にプレーできている時の心理状態について、スポーツ心理学の側面から解説している書籍がありますので、その一部をご紹介します。

スポーツには「攻めの心理」と「守りの心理」があります。といっても、攻撃のときに攻めの心理で、守備のときに守りの心理ということではありません。攻撃のときでも守りの心理になることもあれば、守備のときでも攻めの心理になることもあるのです。

攻めの心理とは、自分のもっている力を100%発揮することに意識を置いた積極的な心理です。勝敗やミスを考えず、ある意味で開き直った状態の時に生まれます。逆に守りの心理とは、勝敗やミスしないことに意識を置いた消極的な心理といえるでしょう。一般に、試合の流れのなかで、自分が相手を追っているときや相手に追いついたときには、攻めの心理になりやすいものです。しかし、勝ちが見えて自分が追われる立場になったときには、突然守りの心理になってしまいがちです。

また、生来の性格として、攻めの心理をもちやすいタイプと守りの心理をもちやすいタイプがありますが、仮に攻めの心理のタイプであっても、いざ勝利が目になると、守りの心理に傾いてしまったりするものです。

この守りの心理は、じつはスポーツではマイナスに作用することが多いのです。たとえば、勝利を意識するあまり、「ここでプレーにミスがでると負けてしまう」という思考が生じたとすると、人は「ここではミスのないプ

レーをしよう」という考えに陥ります。すると、攻めの心理のときには一歩踏み込んだプレーが、逆に一歩後退してしまうプレーになってしまうのです。また、攻めの心理のときには勢いのある大きなプレーができていたのに、それが弱々しい、じんまりとしたプレーになったりします。慎重にプレーをするつもりが、逆にミスする可能性を高めているわけです。

ただし、過度に攻めの心理が強すぎるのもよくありません。ここはどう考えても無理をするべきではないという状況で、「一か八かやってみよう」という無理なプレーに踏み切ってしまう危険性があるのです。これは「自分ももっとできるだろう」という過度な攻めの心理から生まれた「欲の心理」が根底にあるのです。

攻めの心理と、欲の心理は似て非なるものです。攻めの心理は、自分も持っている力の範囲を冷静に受け止めたうえで、もてる力をすべて出し切ろうという心理です。一方、欲の心理は、もっている力を知りつつも、抑制をきかせられず「もっと、もっと」と突き進んでしまう心理をいいます。

以上のことから、試合時の最適な心理状態を総合的に考えると、攻めの心理が7割、守りの心理が3割くらいにミックスされた心理がベストであると私は考えます。このバランスを試合中に保ち続けるためにも、つねに自分が今、どういった心理状態にあるのか分析しておくことが必要です。

(勝ちに行くスポーツ心理学 高畑好秀)

4年生の子どもたちに、心理状態を自らコントロールしなさいとアドバイスすることはできませんが、攻めの心理をもち続けることは実際のプレーにも好影響を与えることがうかがえます。プレーをするのは選手たちです。元気よく積極的にプレーしてもらえような精神面の準備をしてグラウンドに送り出してあげる、これが試合前のコーチの役目として一番大切なことなのかもしれません。(鈴木 章弘)

小 3

【スポーツトリビア】

先日テレビの雑学番組で面白いトリビアがあったのでご紹介したいと思います。知っている方もいらっしやうと思いますが、

NIKE の由来をご存知でしょうか? NIKE の由来は世界史の教科書などでも出てくる「サモトラケのニケ」から来ています。サモトラケのニケは勝利の女神でニケを英語読みするとナイキになるそうです。さらに NIKE のスニーカーなどに付いているロゴはニケの翼をイメージしているみたいです。他にもアディダスとプーマの創業者は兄弟だったり、他にも様々なスポーツリビアがあったので、皆さんも調べてみてください。

【周りを見てみましょう】

最近の練習や試合のテーマとして、「ドリブルの時はできるだけ顔をあげてプレーする」・「ボールを持っていないときは、広いスペースを見つける」の2点を挙げています。試合や練習のゲーム形式の練習では、どうしてもボールに意識がいきってしまうグラウンドを広く使えなくなってしまう場面が多く見られますが、これからの試合や練習などで1人1人意識をもって取り組みれば必ず今より質の良いプレーができるようになるので、選手と一緒にがんばって行きたいと思います。(丸山 祐人)

小 2

【いよいよ】

10月5日から国際チビッツが始まります。9月には練習試合も重ね「試合に臨む準備」をしてきました。メンバー13名でまずは予選リーグの3日間を頑張りたいと思います。

【考える力】

「試合に臨む準備」と言っても、ポジションや難しいチーム戦術を教え込んだりしたのではなく、いつもの活動の中で伝えていることと必要な基本的なルールを再確認しただけです。あとは本番でいかに「ボールを追いかけまわせるか」「得点するために、失点しないためにどうすればよいか考えるか」と思っています。これまでもご案内のとおり、この年代では子供の意思を尊重し、実際にプレーする子供たち自身が考え実行していくことを尊重しサポートしていきたいと思っています。これから長くサッカーを続けていく上で「考える力」を養うための通過点の一つが始まる、とご理解ください。

【繰り返しですが】

そんな子供たちの一番の励みは「応援」です。横浜市サッカー協会のHPに「試合観戦のお願い」もアップされていますので一度ご覧ください。

<http://yfau12.k-free.net/poster01.pdf>

<http://yfau12.k-free.net/poster02.pdf>

これまでもお願いをしておりますが、頑張っている子供たちにあたたかい声援をお願いいたします。(小野 津春)

幼児・小 1

【試合をする意義】

2週続けて試合になりました。もちろん相手のある試合ですから、勝つこともあり負けることもあります。しかし、単純に勝って喜び、負ければ悔しいということで良いのでしょうか。勿論、子どもたちはそれで良いかもしれませんが、大人(親)たちはそれでは困ります。勝ち=○、負け=×という公式が通用するのは、完成されたプロの選手に対する評価です。まだまだ発展途上で、可能性を多く秘めた子どもたちに対してはもっと長期的な視野に立って評価をして欲しいところです。

具体的には、試合の応援にいらしたときには、どれくらいユニフォームの違う相手に対して、これまで練習してきたことが発揮できるかという視点で見ることをお願いします。試合のなかでは、練習中にできたことが100%できるとは思いませんが、練習でできないことは試合では絶対にできません。相手も必死ですし、緊張もあるでしょう。プレッシャーも少なからずあるのでしようから。

では、普段の活動で、何を練習しているのかということです。それは練習にも足を運んでいただかないとお分かりいただけませんが、貴重なお休みの日とは思いますが、日曜日に港北小学校で子どもたちがどんな練習をしているのかをご覧ください。お父様、お母様が見てくれている(関心を持っていてくれる)ということは子どもたちの励みにもなります。

私自身は、今の時期はドリブルを中心に練習を組み立てています。また、ボールを奪われないように、あるいは逆にどうやってボールを奪うのかという体の使い方については練習させています。ですから、

それらの点について、どれくらいできているのか、あるいはできていなくても、練習してきたことをやろうとしているのかどうかを確認しています。ボールを蹴ることに関しては、まだまだ本格的には手をつけていませんので、その部分については、今の段階では上手にできないことはやむをえないと考えています。今後に期待してください。

また、応援についても一つお願いがあります。それは、自分の子だけでなく自分のチームの子どもたちと相手のチームの子どもたち全員に対して、声援を送って欲しいということです。声援の中身についても、「うまくできたら褒める。ミスしたら励ます。」という基本的なスタンスをお願いします。

最後に、だいぶ寒くなってきていますので、ユニフォームの下に長袖のシャツを1枚着せて、活動に参加させてください。

(佐藤 敏明)

Papas

【シニアリーグ経過】

シニアの試合は9月の試合も終わり、いよいよ大詰めとなりました。Recは9月28日のFC430戦でロスタイムでの失点で敗戦となりました。前半が押し気味で何回も得点チャンスを得ながらの敗戦で大変残念です。その結果、1勝7敗1分で最下位の13位に後退しましたが、2勝以下のチームが6チームもあるという下位混戦の状態ですので、一つでも勝ち星を多く挙げて、一気に中位を目指したいということです。

Compは9月28日の鎌倉戦を攻めながら0-1と落としてしまい、0勝6敗3分の最下位12位と後退しました。最下位2チームは自動降格、ワースト3位が入替戦というルールですので、いわば「崖っぷち」。しかも残る2試合はリーグ2位横須賀と同4位茅ヶ崎の強豪相手。しかし、先日のリーグ1位鎌倉を攻め込んだ勢いで「崖っぷち」脱出、2部リーグ残留を目指しましょう。

両チームメンバーにおかれては、まずは日程調整をしていただき、できるだけ多くの仲間に残る試合に参戦しましょう。お仕事もあるでしょうし、ご家族のご都合やご子息の国チビの応援もあることと思いま

すが、リーグ最下位からの脱出を目指す父親の後ろ姿も、これまたひとつの在りようかと愚考します。両チームメンバーにご家族、関係者の皆様のご理解ご協力、さらには熱いご支援ご声援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

【怪我にご注意を】

試合中の怪我が多くなっています。怪我には二つのパターンがあります。一つは接触プレーによる外傷。直近では Rec のフィルが相手の肘が入って肋骨骨折などです。これについてはシニアリーグでは以前から重要な問題としてとらえており、危険なプレーをなくす、危険なプレーはきちっとファウルを、警告を、さらには退場を出していこうと取り組んでいます。特にシニアリーグは帯同審判による審判ですので、レベルや基準が整いにくいことから、審判研修会を実施し認定審判員の更新義務とするなど努力されているところです。しかしリーグ戦も終盤に入り熱を帯びてくるとやはりラフプレーが出ます。自分で気を付けていてもどうしても怪我をもらってしまう場面も出てくるでしょう。もらわないように気を付けるというのはなかなか難しいことですので、せめて自分がラフプレーをすることだけはないようにいたしましょう。

もう一つは原因が自分自身に内在しているものです。実はこちらの方が多いです。膝関節の半月板、十字靭帯、下肢のアキレス腱、ひらめ筋などの損傷、断裂などです。原因はアップ不足とかミネラル不足とかも言われますが、やはり 40 歳を過ぎてからのこうした損傷や断裂などの原因から加齢を外すことはできないでしょう。本人は体力も落ちていないしまだまだと思っけていても、筋や腱は間違いなく柔軟性を失っていますし、ほとんどの方は筋力が落ちる、即ち、筋繊維が細くなっております。その結果、僅かの衝撃やちょっとした過度の筋や腱の緊張で、断裂したり損傷したりしてしまいます。接触して外傷を負ったとされている事例でも、実はその基底には加齢の問題が横たわっていると私は思います。加齢、歳を取ることを予防することになりますと、今はやりのアンチエイジングということになるわけですが、薬剤など効果的なサプリメントもあるようですが、そ

こは Rec のローチ博士にお伺いするのがベストでしょう。私からは、ストレッチ、テーピング、ウオームアップ+サリチル酸製剤をお薦めしましょう。

まずはストレッチ。筋繊維は鞘の中に入っているようなもの、これを一つずつ外に出してあげることにより、柔軟性が向上して怪我を予防しパフォーマンスを向上させます。テーピングは細くなった筋肉を補強したり、既に傷めた筋肉や腱を保護したりと効果抜群です。ウオームアップは循環器機能を高めるだけでなく、筋肉や腱も温まることで動きやすくなり柔軟性が増し、怪我が少なくなります。そこに商品名サロメチールとかラブとかのサリチル酸メチル製剤のクリームを塗布しておくことも有効です。サロメチールという学生時代に運動後の筋肉痛の治療によく塗布したもので部室の匂いは汗とこの匂いが混じったものでした。これを運動前に塗布しておくことと血行を良くし柔軟性が増して怪我の予防につながります。

我々の体は自分自身で手入れする他はないのですが、自分は若いと思わず、運動の前後、とりわけ試合の前後にはじっくりと筋肉と腱のお手入れをして、怪我の予防、強いてはアンチエイジングに努めてみませんか。(茅野 英一)

Mistral

9月23日に「女性のためのやさしいフットサルタイム」が白幡地区センターで行われました。前回の港北小学校の時は参加者が多かったのですが、今回も参加者が多いと良いなど楽しみにしていたのですが、残念ながらミストラルを合わせても16人位で、人数が少なかつた為コーチにキーパーとして参加して頂き4チームで行われました。キーパーのガードが良く最初の試合は4チームとも点が取れなくて勝負が決まらず苦戦していました。最後、私たちのチームは2回続けて試合をしたので最後は体力不足のようで前に出てシュートの数も少なくなり負けてしまいました。1点も取れなかったけど皆さんと試合が出来るのは楽しいです。これからも第3回、4回と出来ることを楽しみにしています。(いつも楽しませてくれるコーチに感謝感謝)

(中島 恵子)

ヨーガ

皆さんお疲れさまです。

先日、某乳児保育園にてヨーガクラスを担当させていただきました。対象となるのは日ごろ園で働いている保育士さんをはじめとする方々です。

私は、クラスの最初に体で具合の悪いところがないかどうかをお聞きするようになっています。痛みを我慢して動いてしまったり、無理をして悪化してしまうことを防ぐためです。普通は年齢の高めの方が肩や腰のトラブルを抱えていることが多いのですが、今回のクラスでは若い方にも痛みのある方が多いことに驚きました。実際にアーサナ(=ヨーガのポーズ)を行ってみると体の硬い方が本当に多い……。これでは故障が出るはずですよ。

ヨーガでは、体にストレスやマイナスの感情が溜まると体が硬くなるとされています。察するに園のお仕事の過酷さは並大抵ではないようです。これからの世代を育てる素晴らしいお仕事をされている方々に、少しでも元気になっていただきたい思いを込めてクラスを進めさせていただきました。その思いが伝わったのか、多くの方に「体中に血液がめぐり始めた気がする。」「気持ち落ち着き癒された。」などの感想をいただきました。うれしいです。最近ではヨーガのデリバリーとでも言いましょうか、こういった単発のクラスを提供する機会が多くなっています。一人でも多くの方にヨーガとの貴重な出会いを提供できたら、これをきっかけにご自分の体のコンディションにもっと関心を持っていただけたら、と強く思います。(伊藤 玲子)

たわごと 理事長の戯言

【インターン】

8月から9月にかけて、今年は二組3名の大学生の方がインターンに来られました。

一人は東海大学の唐川君。高校、大学とも浅賀コーチの後輩です。

そして神奈川大学の斉藤さんと瀬尾さん。初の女性でした。

皆、一生懸命真面目に勉強してくれました。

研修期間が終わっても、斉藤さんはマリ

ノスとの交流試合の時にお手伝いに来て
くれました。

皆さん、私が一人でやっていた細々した
ことを進んでやってくれましたので、実は
結構楽をさせてもらいました。ありがとうご
ざいました。

将来、スポーツの世界で再会できること
が楽しみです。

スポーツを支える人材を育成するのも
我々の使命です。

これでまた3人の人を育てることに繋が
れば嬉しく思います。(内田 佳彦)